

# 大分署・大分西部署合同で 採材検討会を開催

～ 林業事業者等関係者 総勢80名が参加 素材流通の連携に期待！ ～

令和元年5月16日、由布市湯布院町川西の蛇越岳国有林216林班内において、大分森林管理署・大分西部森林管理署合同により、採材検討会を開催しました。当日は、大分県内の国有林の森林整備に係る林業関係事業者やシステム地元協定者ら45名の参加者と主催者側から坂本大分森林管理署長、益田大分西部森林管理署長をはじめ森林管理署職員が参加し、総勢約80名で実施しました。

採材検討会では、廣田主任森林整備官の司会進行により始まり、検討会の趣旨を説明したあと、主催者を代表して坂本大分森林管理署長から、「森林整備により伐採・搬出された材が、どのように採材をすれば流通にのって消費者に届くのか、国民の財産としてマテリアル利用に重点を置いた採材を意識して、限られた時間ではありますが、有意義な検討会となるようお願いします。」と挨拶がありました。

つづいて、高倉総括森林整備官から、森林整備事業の現場で安全作業を行うための、伐倒時の退避、クサビの使用方法など安全対策の説明。また、蛇越岳国有林を管理する久住森林事務所の上村首席森林官から検討会会場となる現場の林況、出材予定などの概要を説明。蒲池森林整備官から、採材を行うにあたっての、直材の基準など品質確保をするための注意点について説明を行いました。

その後、サンプルとして準備した4本の全幹材を、どのように採材することがニーズにあった採材ができるかの検討を行いました。

元口部の曲がりや3メートル、4メートル部で曲がったサンプル材で意見がわかれる場面もあり、実際に採材を行いどのような長さで採材することが有利となるか、採材をした後の材を見て各社の目線が一致できました。

おわりに、益田大分西部森林管理署長から「普段はキャビンからの作業となりますが、今日は理想的な採材を検討し、それぞれの立場からの目線による違いも見えました。1本の木から価値ある材を生み出すため、本日の検討会で出された意見を明日からの作業に反映していただきたい。」と挨拶がありました。

この度、検討会の開催にあたって、ご協力頂いた大分林業(有)に感謝申し上げます。



廣田 主任森林整備官(左から2番目)  
開会を宣言



坂本 大分森林管理署長 主催者代表挨拶



参加者による採材の検討



参加者による採材の検討

【 採材検討会の様子 】 由布市湯布院町 蛇越岳国有林216林班内

